

2017年度 入学者受入れの方針に照らした大学入学者選抜の取組の適切性に関する検証

FD委員会

マイステップ・リエゾンポートフォリオ「学びの志ふり返り（学科／研究科専攻の入学者受入れの方針）」のデータを活用した検証です。学科の入学者受入れの方針については、本学ホームページの「教育方針」（下記のURL）をご覧ください。

<https://www.tfu.ac.jp/aboutus/policy/index.html>

学科・研究科専攻	検証の結果
福祉行政学科	<p>各設問について、1～6（全くそう思わない～非常にそう思う）の選択肢とした。得点化した平均値の結果が右の図である。</p> <p>福祉行政学科のアドミッションポリシーを踏まえた「学びの志ふり返り」に対し「1. 学習意欲（平均 4.50）」「2. 地域の発展への貢献（平均 4.68）」「3. 自治行政への関心（平均 4.48）」「4. 主体性・協働性（平均 4.61）」「5. 問題解決力（平均 4.61）」になっており、「ややそう思う」と「そう思う」、「非常にそう思う」という割合が高く、アドミッションポリシーに照らした取組は適切であることが示された。</p> <p>自治行政への関心では、少数ではあったが「全くそう思わない（1名）」「そう思わない（3名）」、問題解決力でも「全くそう思わない（1名）」「そう思わない（2名）」という否定的な学生はいるが、適切な対応が必要と思われる。</p> <p>自由記述では「将来のことを考えて学習に取り組んでいきたい」「上記の質問の内容はとても重要であると思うので高められるように頑張りたい」「自ら積極的に勉強に励んでいきたい」など学修に対する意欲を見せる傾向があった。また、「公務員になるにはどのスキルも必要なので、大学卒業までには身に付けておき、また、これらのスキルを活用できるような学修をしていきたい」「将来は地方公務員として地域の発展の力になるよう知識を深めようと思う」「社会貢献活動やボランティア活動を通して福祉の精神を育て、自分のものにしていきたい」という答えもあり、公務員志望の学生や社会貢献に興味をもつ学生もいることが分かった。このような点を踏まえて、入学前教育に学習意欲を高めるような取り組みが必要であることと、自治行政、社会貢献や福祉の観点を取り入れた課題への取り組みが必要であると思われる。</p>

